

淡水資源に関する討議用ペーパー（仮訳）

序文

世界各地で水をめぐる状況はより深刻となっており、アジア太平洋地域もその例外ではない。アジア太平洋の多くの地域では、水の量と質双方において深刻な状況におかれている。この有限で脆弱な水資源の集中的な利用と乱用が続けば、淡水資源や土地資源を劣化させることになり、これが水ストレスをより増大させる結果に繋がる。本地域で広く問題となっている水質汚濁は、水不足を悪化させるだけでなく、人の健康にも悪影響を及ぼす。利用可能な水量と水需要量のバランスが崩れることで、国同士、都市と地方、コミュニティの中など様々なレベルでの水に関する紛争が起きるであろう。洪水や干ばつなどの自然災害は人々の生活を脅かし、人々が安全で健康な生活を送ることができるような水供給と衛生設備にはまだ多くの改善の余地がある。本地域の人口増加と経済成長が何の対策もなく進んでいけば、これら水危機はますます悪化し、持続可能な発展を妨げる主要因となる。

水は多様で複雑な性格を持っている。それ故に、水危機に対処する際には、水に関する政策と、土地、都市計画、貧困撲滅など他の政策との統合に注意を払うべきである。水に関わる政策はまた、水がその地域の地理的そして社会・経済的状况に密接に関連していることから、地域性にも考慮したものでなければならない。今、優先課題を見つけ、当地域に適した現在の水危機に対する有効なアプローチ方法を見出すことが必要となっている。また、近い将来に起こりうる新しい水に関する問題を明らかにし、それに対するより良い解決方法を探ることも APFED にとって重要な課題である。

討議事項

1. 水問題を貧困削減と関連づけること
水供給・衛生設備、水の価格付けなど水管理のすべての側面は貧困と関係がある。水管理による貧困に関する悪影響を最小化し、良い影響を促進することを優先すべきである。
2. ガバナンスを実践に移すこと
分権、参加の促進と企業とのパートナーシップがしばしば求められてきており、効率的なメカニズムと実践的な運営に考慮が必要である。この点で、政治的意志を動かすことが重要な要素である。
3. 水の価格付け及び水の価値を計ること
水の価格付けにより水の需要の管理が効率的となる。さらに水資源の経済的な価値に加えて、社会、環境面からの重要性を考慮して水資源の価値を検討しなければならない。
4. 水管理を促進すること
統合的水資源管理（IWRM）の採用は持続可能な水管理の鍵である。IWRM に加え、伝統的な水管理の手法を再活用することもより考慮に入れなければならない。国家間及び国内においてより良く水を配分することで、水不足に対処する可能性が大きく向上する。
5. 水に関する係争が増加すること

食糧の確保と作物の輸出を目的とした農業生産のための水利用と水保全/水の安全保障との競合について解決の方向を示さなければならない。国際河川における紛争管理メカニズムの創設もまた非常に重要な問題となってくる。

6. 教育と啓発が重要であること

教育は水資源管理の改善の基礎となるべきものである。例えば、共有された水資源の管理に関する相互理解を醸成することおよび日常の簡単ではあるが効率的な水の保全方法（再利用やリサイクル等）を一般的にすることなどがある。

7. 新たな問題

水危機が深刻になるにつれ、新たな水問題が生じてくるであろう。例えば、水の貿易によって水へのアクセスを増進させる新たな機会を提供することが可能となるであろう。同時に、不適切な価格付けや水資源の過剰搾取などの悪影響に十分な留意が必要である。